

瓢塚古墳（ひさごづかこふん）

瓢塚は、加部島の東北部、標高24mの台地の東端に位置する。古墳の東側は傾斜が急となり、高さ20mの急崖を介し玄界灘に面しており、海上からの眺望を意識して築造されたと思われる。

本墳は昭和初期に地元青年団により第1次発掘調査が行われたが、その詳細は明らかでない。昭和47年の佐賀大学による第2次発掘調査では前方後円墳である可能性が指摘され、さらに平成14年度から2か年にわたる呼子町教育委員会の第3次発掘調査により、横穴式石室を持つ前方後円墳であることが追認された。

墳丘規模は主軸長18.5m、後円部径12.0m、前方部推定幅7.2mで、後円部の残存高は約2m、前方部の残存高は約1mである。墳丘の裾部には、基底部となる列石が全周するが、このうち、後円部の北西側には比較的大きな石が配されている。

玄室からは、須恵器、鉄器、玉類が出土している。

平成16年3月8日 県史跡（古墳）指定
唐津市呼子町加部島字鉢ノ底

分野 歴史

地域 呼子

◎地図・写真・統計資料など



瓢塚古墳

（『佐賀県の文化財』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『佐賀県の文化財』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html